

# ドラッカー塾

**トップマネジメントコース・プログラム**

～経営トップとしてのマネジメント力を磨く～

**株式会社ダイヤモンド社**

# 【講座内容】

## 1. 目的・狙い

- ① ドラッカー・5つの質問』に基づく、ミッション経営を実践する
- ② マーケティングとイノベーション体質の組織に変革する
- ③ 経営トップの役割を再確認し、将来にわたる成長基盤を築く

## 2. 講座プログラム

回	テーマ	内容
1	トップが身につけるべき マネジメント・スタイル	<ul style="list-style-type: none"><li>・マネジメントの効果的な学び方とは</li><li>・ドラッカー5つの質問とは</li><li>・何をもって憶えられたいか</li><li>・トップマネジメントチームの重要性</li><li>・経営トップとしての自らの役割と仕事を見直す</li></ul>
2	われわれの使命（事業）は何か	<ul style="list-style-type: none"><li>・われわれの事業は何を使命とするのか</li><li>・われわれは社会にどのような違いを生み出したいのか</li><li>・使命がわれわれに与えてくれるもの</li><li>・使命を実現するための条件</li><li>・使命を如何に組織に浸透させるか</li></ul>
3	われわれの顧客は誰か	<ul style="list-style-type: none"><li>・事業の目的とは</li><li>・事業を決定するのは顧客である</li><li>・われわれの顧客は誰か</li><li>・顧客（非顧客）はどのように変化しているか</li><li>・成果を生む意思決定のステップとは</li></ul>
4	顧客にとっての価値は何か	<ul style="list-style-type: none"><li>・顧客は本当は何を買っているか</li><li>・顧客がまだ満たされていない欲求は何か</li><li>・顧客が求める価値とわが社の卓越性を一致させる</li><li>・潜在的な顧客が購入しない理由は何か</li><li>・顧客は他社から何を購入しているか</li></ul>
5	われわれにとっての成果は何か	<ul style="list-style-type: none"><li>・成果を測定することの重要性</li><li>・成果は組織の外にある</li><li>・成果をどのように定義すべきか</li><li>・成果をどのように測定すべきか</li><li>・成果測定の必要条件とは</li></ul>
6	われわれの計画は何か	<ul style="list-style-type: none"><li>・われわれは何に集中すべきか</li><li>・どのような市場地位を目指すか</li><li>・事業存続のための8つの目標</li><li>・マーケティングとイノベーションを実践する</li><li>・市場リーダーとなるための戦略</li></ul>

回	テーマ	内容
7	われわれは何を廃棄すべきか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨日を陳腐化させ、明日を創り上げる</li> <li>・体系的廃棄のための視点</li> <li>・成果を生み出す3つの領域を分析する</li> <li>・資源の配分をマネジメントする</li> <li>・組織上の欠陥に起因する時間の浪費</li> <li>・受講者 中間発表</li> </ul>
8	イノベーションで成功するには	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変化をマネジメントする最善の方法は、自ら変化を作り出すことである</li> <li>・事業機会を見つける7つの視点</li> <li>・イノベーションのために、なすべきこと、なすべきでないこと</li> <li>・イノベーションで成功する組織づくり</li> <li>・イノベーションにおいて、トップに求められる姿勢</li> </ul>
9	われわれの組織体制はどうあるべきか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪い組織の兆候とは</li> <li>・組織は戦略に従う</li> <li>・自社にあった組織体制の作り方</li> <li>・組織を作るための4つの分析</li> <li>・組織構造4つのタイプ</li> </ul>
10	仕事の生産性を高めるには	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事とは客体的なもの</li> <li>・仕事の生産性を向上させる4つのステップ</li> <li>・生産性向上のための効果的な管理手段</li> <li>・知識労働者の生産性向上</li> <li>・生産的で効果的な人員の配置</li> </ul>
11	目標による管理とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標と自己統制による管理が目指すもの</li> <li>・支配によるマネジメントを自己統制によるマネジメントに代える</li> <li>・目標は誰がどのように設定すべきか</li> <li>・目標に明記されるべきもの</li> <li>・自己統制には情報が必要</li> </ul>
12	リーダーシップとチームワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一流のリーダーに共通するものは何か</li> <li>・人間のエネルギーとビジョンを創造する</li> <li>・リーダーに求められる基本能力</li> <li>・リーダーがしてはならないこと</li> <li>・組織におけるコミュニケーションとは</li> <li>・受講者 最終発表</li> </ul>

### 3. eラーニング・プログラム

コース	内容	コース	内容
1	自らをマネジメントする	6	企業買収戦略
2	人を活かす人事の意思決定	7	アライアンス
3	上司をマネジメントする	8	ビジネスにおける5つの過ち
4	成果を生む意思決定	9	永続的コスト管理
5	知識労働者の生産性	10	起業/新事業戦略

## 4. 講座の進め方

講義参加前	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 講座テーマに関して事前に自分の考えをまとめる</li></ul>
講義当日	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 1ヶ月間の実践の振り返り（リフレクション）</li><li>・ 講座テーマに関して、マネジメントの基本と原則を理解する（講義）</li><li>・ 講義内容、ドラッカーの「問い」をもとに、自社について熟考する（各人検討）</li><li>・ 各自が熟考した内容をもとに、経営者同士で徹底したディスカッション・相互アドバイスをを行う（グループ討議）</li></ul>
講義参加後	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 講座で学んだことを整理する</li><li>・ 学んだことを仕事の上で実践する</li><li>・ eラーニングによる自己学習</li></ul>

## 5. 講座開催概要・受講条件

受講対象者	実質的なトップ経営者 ※ ご参加にあたっては事前選考がございます
参加募集人数	12名
開催頻度	毎月1回 1年（12回）
開催時間	10:00 - 18:00 ※ 第7回・第12回は2日間の開催となります。
受講料	1人 1,800,000円（税別・教材費・eラーニング費用込）